

学校だより

# 東泉丘

令和5年(2023年)11月号

全児童数 620人(10/12現在)

豊中市立 東泉丘 小学校

校長 河上 洋介



## 全国学力・学習状況調査結果について

4月18日(火)に、に実施した全国学力学習状況調査の本校の結果について、お知らせします。子どもたちには、個人結果票や問題用紙を10月11日に返却しています。

まず、平均正答率では、国語、算数ともに府、全国を上回っていました。正答数分布で見ると、いずれもばらつきが少なめで、国語では、府や全国の平均よりも高いところにかたまっています。算数では、平均に近いところにかたまっていて、国語に比べるとばらつきがあります。

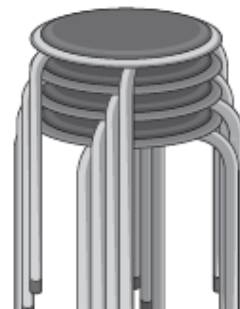
算数を問題別で見えていくと、記述式の問題で正答率が府や全国を上回っています。昨年度までと同様、記述式が本校の児童の強みと言えます。ただし、記述式の問題が3問あったうち、1(3)については府や全国との差がありません。1(3)は、次のような問題でした。

(3) いす4きゃくの重さをはかると、7kgでした。

このいす48きゃくの重さは、何kgですか。

求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、

答えも書きましょう。



この問題の求め方は、まず1脚あたりの重さを計算する方法と、比例の関係を使う方法の2通りがあります。どちらの方法を選んだのかを調べると、1脚あたりから計算する方法を選んだ本校の児童は、府や全国に比べて多くなっています。逆に比例の関係を使った児童は、府や全国に比べて少なくなっています。1脚あたりから計算すると、まず $7 \div 4 = 1.75$ となり、 $1.75 \times 48$ という計算をすることになります。この問題で正答率が府や全国と差がなくなった原因は、この計算を間違えていたことでした。もし、この問題を下のような表に整理していれば、比例の関係が見えてきたのではないかと考えます。そうすれば、 $7 \times 12$ という簡単な計算で答えを出すことができた問題でした。

		$\times 12$	
いすの数(脚)	4	$\longrightarrow$	48
いすの重さ(kg)	7		?

普段の授業では、まず、問題を表や図、絵に表して整理するという活動を大切にしたいと考えます。他に、府や全国と正答率の差が小さい問題に、3(4)があります。

$$\begin{aligned}
 66 \div 3 &= (60 + 6) \div 3 \\
 &= \underbrace{60 \div 3}_{\text{い}} + \underbrace{6 \div 3}_{\text{う}} \\
 &= \underbrace{20}_{\text{え}} + 2 \\
 &= 22
 \end{aligned}$$

【66÷3の筆算】の手順2で十の位にたてた「2」は、左の式のあ、い、う、えのどの計算をした結果を表していますか。一つ選んで、その記号を書きましょう。

手順2

$$\begin{array}{r}
 2 \\
 3 \overline{)66} \\
 \underline{6} \\
 6 \\
 \underline{6} \\
 0
 \end{array}$$

誤答傾向を見ると、「う」の6÷3を選択しているものが、府や全国に比べて多くなっています。手順2で十の位にたてた「2」は、60を10のかたまりが6個あると考えて6÷3をした結果を表しているため、正答は60÷3の「い」です。筆算の手順を覚えて計算ができるだけでなく、手順の意味を理解していることが求められています。授業では、例えば、筆算の手順を絵や図を使いながら自分の言葉で説明したり、友だちの説明を聞いたりする学習活動を取り入れ、手順の意味を理解できるよう工夫することが大切です。

<まとめ>

- ・国語、算数ともに平均正答率が府や全国を上回っていて、高得点層に固まっていますが、算数では国語に比べてばらつきが多くなっています。
- ・国語、算数ともに記述式の問題において、平均正答率が府や全国を上回る傾向があります。昨年度同様、本校6年児童の強みと考えられます。また、児童質問紙の結果にも、記述式問題に最後まで取り組もうとする意欲が表れています。
- ・今後も、ノート指導等を通して、書く活動を充実させ、長所である書く力を伸ばしていきたいと考えます。その際、文章や表、図、グラフ等、複数の資料をもとにしながら自分の考えを書く活動を充実させることが大切です。
- ・また、問題文を読み、解答に求められている条件を正しく理解することも大切です。
- ・算数においては、百分率や比例の関係等、変化と関係にかかる問題に課題が見られました。これは、すすくテストでも同様です。普段の授業において、問題を表や図、絵等を使って整理し、数の関係を理解する活動を充実させることが大切です。
- ・また、答えが出せるだけでなく、途中の考え方の部分を理解することも大切です。例えば、割り算の筆算の手順の意味について理解するために、手順の意味を図や絵を使いながらお互いに説明し合う活動を充実させ、算数の見方や考え方を育てることが大切です。

## <連絡やお願い>

- ・今年度、算数の研究授業を年間3回、水曜日に実施予定です。当日は、研究授業を実施するクラスのみ5時間授業となり、その他のクラスは給食を食べた後13時ごろに下校します。この2回目を、11月22日（水）に5年3組にて実施予定です。

本校の目指す学校像「ひとりひとりが輝く楽しい学校」

目指す子ども像「伝え合い 認め合い 高め合い 3つの合い（愛）」